

東日本大震災・原発事故から1年。命と暮らしを守り 子どもたちに原発のない日本を



「震災復興・なくせ原発3・11行動in東京」会場
で地域のみなさんと（11日・井の頭公園で）

東日本大震災から1年を迎えました。亡くなったり行方不明の方々とご家族にあらためて哀悼の意を表します。

11日、犠牲者を悼み、被災者本位の復興と原発からの撤退を求めるとりくみが各地で行われ、私も参加しました。

1年たっても、被災地ではマスメディアの調査に復興が「進んでいない」という回答が7、8割を占めます。日本共産党の「しんぶん赤旗」が被災3県で被災者300人に直接聞いた調査（下段の円グラフ）でも、被災した自宅の再建がほとんど進んでいない様子が浮き彫りになりました。

被災地での懸命の努力にもかかわらず生活再建が進まないのは、政府の対策が不十分だっただけではありませぬ。復興策に、「競争力」や「規模」などの条件をつけ、選別と切り捨てをもちこみ、「復興増税」など被災者を逆に苦

被災者選別を許さない



新宿・柏木公園で行われた「忘れない3・11キャンドルプロジェクト」会場
で笠井亮衆議院議員と（左）。東京から参議院のさす吉良よし子さん（右中央）
らとともにキャンドルを手に歩き、飛び入り参加の若者もいました。



しめる政治がおこなわれてきたことが問題ではないでしょうか。

仮設住宅に風呂の追い焚き機能を

東北のこの寒い冬の間、仮設住宅には、風呂の追い焚き機能すら設置されてきませんでした。

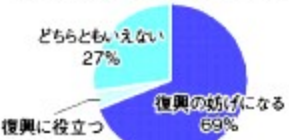
一方、復興財源を使って自衛隊の輸送機を予定より前倒しで買い替える予算（8機440億円）が潜り込ませてあります。

約5万戸の仮設住宅の風呂に追い焚き機能をつけりつける費用（150〜200億円）は、この前倒し2機をやめれば出てくる金額です。

全壊・半壊した自宅を再建する展望はありますか



消費税増税についてどう思いますか



回答者は岩手県79人、宮城県135人、福島県86人

富田なおき事務所の法律相談日

4月20日(金)、5月18日(金)

TEL 03-3357-3392

午後6時30分から当事務所（都営新宿線曙橋駅から徒歩3分）にて

原則として毎月第3金曜日に開催、弁護士が相談に応じます。事前にお電話でご予約ください。



日本共産党衆議院東京1区（千代田・港・新宿区）

国政対策委員長・若者相談室長



富田なおきの
つながる通信

No.30 2012.3.25

発行：富田なおき事務所

〒162-0065 新宿区住吉町11-25

TEL 03-3357-3392

FAX 03-3353-4912

E-mail tomitanaoki.jimusyo@gmail.com

富田なおきの提案

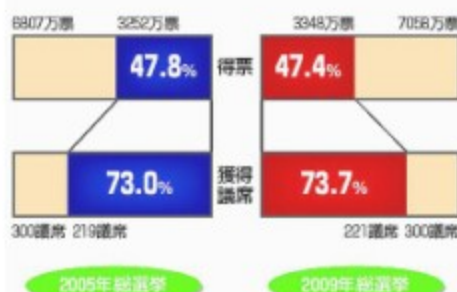
民意が反映する選挙制度に

2月23日付の各紙は「区割り違法状態に」「国会が機能不全」と報じました。

2月25日という期限は、今の制度を前提にした選挙区割りの見直し期限です。民主党はこの期限を強調、小選挙区制を維持・固定化しようとしてきました。

2005年、2009年の総選挙では、第1党が4割台の得票で7割台の議席を得、民意がいちじるしくゆがめられてきました。民主党以外が合意している「選挙制度の抜本改革」こそ急務ではないでしょうか。

こんなに違う！得票と議席



白金・南麻布後援会のつどいで (2月25日)

これに対し、日本共産党の井上哲士参議院議員は9日、これまでの政府は電力会社の言い分に合わせて安全対策をおろそかにしてきたことを追及。班目(まだらめ)春樹委員長は「事業者の自主性に任せていた」「(福島第一原発事故を招いた)全交流電源喪失は、わが国では可能性が低いと真剣な検討はしてこなかった」

ようとしています。これに対し、地震で原子炉や配管の損傷がなかったと断言できるか質問。政府事故調査委員会も結論を出しておらず、「原因究明が途中。再稼働はありえない」と迫りました。福井県の大飯原発のストレステストでは、活断層が調査中なのに原子力・安全保安院が「妥当」としてきました。経済産業大臣

原発事故で福島県内外に避難を余儀なくされている人は16万人にのぼります。都心部でも、放射性物質が土壌や子どもの体内から検出されるなど、事態は待ったなしです。

原発再稼働に根拠はあるか

野田首相は「一定の知見が(福島原発事故の政府の)中間報告で出てきている」として再稼働に向かう考えを示しています。

「政治判断する」と居直る首相。国民の命よりも大事なものがあろうです。



キャンドル(ろうそく)の灯で描かれた「3・11つなく」の文字(11日・新宿区柏木公園で)

「深く反省している」と答えました。

政府は「津波が原因」という電力会社の主張をうのみにし、津波対策さえ講じれば、原発の再稼働を認め

は「ストレステストをやったから安全性が確認されるわけではない」と認めました。原因究明も安全確認も事故後の対策もできていないことが明らかになりましたが、それでも

富田なおきの へのへのもへ路 12

新宿区・中井駅周辺で行われた「染の小道」というイベントにおじゃましました。

昭和初期から30年代まで、東京の神田川・妙正寺川流域には300軒を超える染色関連業が集積し、京都・金沢に並ぶ三大産地として知られていたそうです。林芙美子や赤塚不二夫など多くの文化人が暮らしたことで知られます。

「染の小道」は、落合・中井を「染めの街」として再び日本や世界へ発信すること、そして、地域が大切にされてきた価値や環境を多くの方々に直接体験していただき、地元の活性化につなげることを目的とした、住民主体のイベントです。(主催者ホームページより)妙正寺川の川面に反物を張る「川のギャラリー」、商店街の軒先に、作家が製作した「のれん」が展示された「道のギャラリー」は見事でした。



妙正寺川の上に反物がかかる「川のギャラリー」を背に (2月19日)